

4. 父の死

高森町高森中学校北部校一年

T・T

忘れようとし、すも一生忘れられない出来事であった。

六月二十七日、僕達が学校にいるうち放送で、

「大雨になり、どりだから、部落ごとにならんぞ帰って来て下さい。と」言った。

帰りに田沢川の水はゴーゴーと恐ろしい音をたてて流れ、植えたばかりの青

い田からは茶色の水がどろどろと流れ、苗は横たおしになつていた。

家に帰ったからお姉さんとおかあさんとおとうさんは、田んぼが流れるので防

ぎにいつて、るすだった。有線放送ではたえずきんきゅうお知らせをしめていた。

川があふれたとかが、山がくずれたり家がつぶれたとかいうことは、はかりだった。

夕方ものすごい音がした。すこしたつとお姉さんが青くなつて帰つて来た。

話しによるとものすごい音とものに大水がおどいかり必死になつて逃げた。

振り返って見ると田んぼはみずうみみたいで、僕のおとうさんやおかあさんの

姿は見えなかつたという。

その夜は電気は消え、恐ろしいのと悲しいのとで眠れなかつた。つぎの朝早く

田沢川で女の人がお助けを呼んでゐる。別家のおばさんらしいといつていた。助

けに行つて見たら、おかあさんだと、連絡があつたが、橋が落ちた、くること

ができなないので、おかあさんは松川の病院へ入院した。おかあさんが助かつて

僕達はほっとした。つぎつぎに亡くなつた人があがられた。僕のおとうさんも

その中の一人であった。この洪水で田沢川は見るかげもなく白い河原となり十

人の大切な命がにくい洪水のためにはうばわれまされた。

今では災害でいためつけられた所も、町内や県の人達が全力をあげて復旧に努力し、石と砂ばかりだった田んぼもダンパーカーで赤土をばこんでだんだん良田になつてきている。

今年も半分以上は出来あがり稲がみのつたが、僕の家では約五反歩の田んぼが全部流失してしまつた。その上今年の春は長雨がつづき、今年も田植をすることができなくて残念だった。この工事が一日も早く終つて稲のみのるのをまつている。又大水が出てもびくともしないじょうぶなものになつてほしい。

おかあさんも百日の病院生活をしたが今では丈夫になり、僕達のため的一生懸命働いてくれる。僕は男三人兄弟だ。いくらおとうさんのことを思つても死んでしまった人はかえらない。家族みんなが力を合せてがんばらなくてはならないと思う。

楽しい時には家中が楽しみ、悲しいことがあつてもふへいをいわずにかまををするのだ。

来年は田植も出来る予定だ。僕は農業高校を卒業したら、おかあさんと一生懸命に農業をやるつもりでいる。

(三十八年)